

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	原価計算	1前		2			○					1				
	経営史	1前		2		○	○					1				
	産業創出論	1前		2			○			1						
	サービスマーケティング論	1前		2		○			1							
	グローバル経営論	1前		2			○		1							
	経済学史	1後		2			○		1							
	産業組織論	1後		2		○				1						
	マクロ金融分析	1後		2			○			1						
	産業発展論	1後		2			○		1							
	現代企業論	1後		2		○			1							
	比較政治経済論	1後		2		○						1				
	金融論	1後		2		○			1							
	国際経済学	1後		2		○									兼1	
	地方財政論	1後		2			○			1						
	雇用政策論	1後		2		○			1							
	貿易政策論	1後		2		○									兼1	
	イノベーション論	1後		2			○			1						
	実証会計	1後		2		○			1							
	国際財務報告	1後		2		○				1						
	管理会計	1後		2			○					1				
	中小企業論	1後		2		○						1				
	ベンチャー企業論	1後		2			○			1						
	政策科学コース特設講義	1後		2			○								兼1	
	小計 (34科目)	—	0	68	0		—		8	7	0	3	0	兼2	—	
科目領域横断型	グローバル化と共生社会	1前		2		○			4	7		1		兼3	オムニバス方式	
	文化芸術社会の展望	1後		2		○			6	1		3		兼4	オムニバス方式	
	共生の時代の経済・産業政策	1後		2		○			4	7		1		兼1	オムニバス方式	
	小計 (3科目)	—	0	6	0		—		10	12	0	5	0	兼5	—	
プロジェクト研究	特別研究Ⅰ	1通		4			○		7	7		2				
	プロジェクト研究Ⅰ	1通		2			○									
	特別研究Ⅱ	2通		4			○		6	5	1					
	プロジェクト研究Ⅱ	2通		4			○									
	小計 (4科目)	—	0	14	0		—		9	10	1	2	0	兼0	—	
合計 (158科目)		—	2	320	0		—		18	27	1	13	0	兼19	—	
学位又は称号		修士 (人文社会科学)			学位又は学科の分野			文学関係、経済学関係、法学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件	1 学年の学期区分	2期
(1) 本研究科に2年以上在学すること。(特例として1年以上とする場合もある。)	1 学期の授業期間	15週
(2) 30単位以上修得すること。	1 時限の授業時間	90分
(3) 必要な研究指導を受けたうえ修士論文又は個別課題報告書の審査及び最終試験に合格すること。		
履修方法		
【修士論文選択者】		
(1) 必修科目 2単位 専門技能系科目を修得すること。		
(2) 選択科目 26単位以上		
①特別研究 8単位 ②所属コースの専門科目 10単位以上		
③所属コース以外の専門科目 4単位以上 ④多領域横断型科目から4単位以上		
(3) 自由科目 2単位以上		
本研究科で開講している専門科目及び多領域横断型科目から2単位以上(ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目から2単位まで含めることができる。)修得すること。		
【個別課題報告書選択者】		
(1) 必修科目 2単位 専門技能系科目を修得すること。		
(2) 選択科目 24単位以上		
①プロジェクト研究 6単位 ②所属コースの専門科目 10単位以上		
③所属コース以外の専門科目 4単位以上 ④多領域横断型科目から4単位以上		
(3) 自由科目 4単位以上		
本研究科で開講している専門科目及び多領域横断型科目から4単位以上(ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目から2単位まで含めることができる。)修得すること。		
(履修科目の登録の上限：24単位(1学期))		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健学研究科 心理支援科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開 I	
	保健医療分野に関する理論と支援の展開 I	<p>(概要)</p> <p>講義及びグループワーク、レポート作成を行い、保健医療分野に関わる公認心理師の実践を学ぶ。本科目を通じて、保健医療分野に関係する法律・制度、様々な職種の役割について理解できること、及び保健医療分野における心理支援、多職種連携に必要な理論（症候学・診断学）について理解を深めることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健医療分野の基礎として、医療安全や精神保健福祉、保健医療分野に関わる法律と制度、多職種連携に関わる職種とその役割について学修する。 医療分野での実践として、予診の取り方、診療録の書き方、患者との面接の進め方について学修する。 精神科・心療内科での実践として、生活習慣病と心身症、発達障害を含む精神障害の症候学・診断学、心理支援について学修する。 	
	教育分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育分野の基礎として、教育相談、発達障害と特別支援教育、インクルーシブ教育、学校における倫理的配慮、多文化的背景を持つ子どもの心理的理解と支援について学修する。 学校での実践として、教育分野における公認心理師の役割と主な業務、不登校及びいじめ問題の理解と支援、スクールカウンセリング、心理教育的アセスメント、緊急支援について学修する。 <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回) (6 岡田敦史、10 榎引夏歩／2回) (共同)</p> <p>授業の進め方や到達目標、成績評価方法について説明し、教育分野の特徴について概説する。また、スクールカウンセラーの「専門性」「人間性」「社会性」の3つの視点から学びについてまとめを行う。</p> <p>(6 岡田敦史／3回)</p> <p>スクールカウンセラーの役割と期待される支援について、事例などを通じて実践を学ぶ。加えて、コーディネーターとしての役割と緊急支援について実践で活用できる知識と態度を学ぶ。</p> <p>(10 榎引夏歩／10回)</p> <p>教育分野における「制度と法規」「発達障害と特別支援」「学校教育アセスメントと心理支援」「学生相談」などについて臨床的課題と実践（心理支援法）について学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
保健医療分野に関する理論と支援の展開 II	保健医療分野に関する理論と支援の展開 II	<p>(概要)</p> <p>講義及びグループワーク、レポート作成を行い、保健医療分野に関わる公認心理師の実践を学ぶ。本科目を通じて、保健医療分野で心理支援に必要な心理師の技能、多職種連携及び総合的支援のための連携について理解を深めること、及び、精神医療に必要な薬物療法及び心理介入法について理解を深めることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 精神科・心療内科での実践として、生活習慣病と心身症、発達障害を含む精神障害の薬物療法の基礎知識、個人・家族への心理支援、多職種連携及び総合的支援のための連携について学修する。 認知行動療法や集団心理療法を用いた心理介入法の理論と支援について学修する。 	

産業・労働分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>1. 現代の労働者が抱える問題について理解するために、働く人々を取り巻く社会情勢や課題、法律・制度、職業性ストレスに関する理論やモデルといった観点から解説する。</p> <p>2. 職場におけるメンタルヘルス体制づくりについて、事例を交えながら解説し、総合的支援のための連携について討論する。</p> <p>3. 職場のメンタルヘルス対策として一次予防から三次予防、ハラスメント、障害者就労、危機介入等について事例を交えながら解説し、実践についての討論を行う。</p> <p>4. 健康的で活力のある職場づくりを念頭においた職場のポジティブメンタルヘルス対策について事例を交えながら解説し、討論する。</p>	
福祉分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉を中心に福祉領域における心理職の支援の基本となる心理学的理論及び関連法制度について取り上げるとともに、支援の実際について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 岡田敦史／8回) 児童福祉及び障害者福祉の各領域における心理職の動向やアセスメント、関連法制度を踏まえた心理支援の実践法について学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝／7回) 高齢者福祉領域における心理職の動向について理解を深め、高齢者に対する心理的アプローチや認知症に対する非薬物的アプローチ、意思決定支援の実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>司法・犯罪分野に関わる理論、及び公認心理師の役割、総合的支援のための連携について、各自の興味に従い、発表とそれに対する討論を通じて学ぶ。主に犯罪加害者と犯罪被害者に関する視点から、犯罪の原因論や処遇モデルの理論的背景、アセスメント技法、及び心理支援技法について、教材事例も取り入れつつ学ぶ。また、各分野について実務経験を有するゲストスピーカーを招き、現場での支援の実際について話を聴く機会を設け、司法・犯罪分野における心理支援の具体的なイメージを持てることを目指す。</p>	
理論と実践科目 心理的アセスメントに関する理論と実践	<p>(概要)</p> <p>1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義について学ぶ。</p> <p>2. 心理的アセスメントに関する理論と方法について学ぶ。</p> <p>3. 心理的アセスメントの実践として、アセスメントで得られた情報の包括的理解、ケースフォーミュレーションの運用、アウトカムデータ・プロセスの測定と評価、医療分野での治療効果に関する情報提供、所見の書き方とフィードバック、多職種連携について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (5 井上直美／4回) 国際生活機能分類 (ICF)、操作的診断分類 (DSM、ICD)、診断・スクリーニング法としての構造化面接、症状評価の他、ロールシャッハテストについて学び、事例検討を行う。</p> <p>(7 大里絢子／11回) 公認心理師の実践における心理的アセスメントの目的・意義・臨床応用・倫理について学ぶ他、知能検査、発達検査、パーソナリティ検査について学ぶ。</p>	オムニバス方式
心理支援に関する理論と実践	<p>(概要)</p> <p>力動論、行動論・認知論、来談者中心療法の理論と方法、ブリーフセラピー、解決志向アプローチの理論と方法、発達論に基づく心理支援の理論と方法、保健医療分野でのコンサルテーション、多職種とのチーム援助について、臨床事例の検討とスーパービジョンを通して、学修する。</p> <p>また心理に関する支援を要するものの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整として、特性や状況に配慮したケースフォーミュレーションと介入の選択と調整、総合的支援のための連携について学修する。</p>	

<p>家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践</p>	<p>(概要) アセスメントや介入、コンサルテーション・リエゾン、アウトリーチ、多職種連携や総合的支援のための連携等、保健医療分野及び福祉分野における家族や集団、地域社会において求められる心理支援の理論について学ぶ。また、求められる実践について臨床事例等を用いて討論し、講師の臨床経験も踏まえて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 玉井康之／5回) 思春期～成人期における家族力動や集団力動、リエゾンチームにおける力動と支援の実際、被災地支援における危機介入の実践について学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝／5回) 高齢者の心理支援におけるアウトリーチ活動や、グループを対象とした心理療法、家族介護者や支援に携わる専門職に対する心理支援の実際について学ぶ。</p> <p>(19 三上珠希／5回) 乳幼児期におけるペアレント・プログラムやペアレント・トレーニング、幼児健診の実際及びその中における心理職の役割について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>心の健康教育に関する理論と実践</p>	<p>(概要) 本授業科目では講義及びディスカッション、グループ発表を行い、心の健康教育に関する理論と実践について理解する。本科目を通じて、心の健康教育に関する理論や支援方法、多職種連携や総合的支援のための連携について理解すること、心の健康教育について、自分なりの考え・答えを持ち、他者に説明できること、及び、心の健康についての予防プログラムを提案し、総合的支援のための連携を実行できることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <p>1. 心の健康教育に関する理論として、健康教育、健康増進及び、行動変容のための基礎理論、総合的支援のための連携について学修する。</p> <p>2. 心の健康教育に関する実践として、心理教育、ストレスマネジメント教育等、心身の健康への支援として、禁煙の支援、アルコール健康問題への支援等、及び災害からの回復支援として、危機介入、コミュニティへのエンパワメントについて学修する。</p>	

<p>実習科目</p>	<p>心理実践実習Ⅰ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の見学またはケース実習を4週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 心理面接（面接の基礎）、心理査定、多職種連携、地域援助活動について演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同) 保健医療分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、アセスメントの実際、健診の陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美) 司法・犯罪分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介、裁判員裁判の見学を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理面接（面接の基礎）、心理査定、多職種連携及び総合的支援のための連携、地域援助活動について、演習及びカンファレンスを通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
	<p>心理実践実習Ⅱ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療分野を中心に精神障害者の心理検査や診察の見学またはケース実習を4～8週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 心理面接（認知行動療法等）、心理査定（対面検査）について演習及びケースについてのカンファレンスを行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同) 2施設の保健医療機関での実習を必修とする。保健医療分野の心理職の役割について講義、施設見学、心理検査、精神科診察の陪席、デイケアの参加、多職種カンファレンスへの出席等を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理面接（認知行動療法）及び心理査定、多職種連携、総合的支援のための連携について、演習及びカンファレンスを通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

<p>心理実践実習Ⅲ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療及び教育または福祉分野のケース実習を8週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 担当したケースについて症例検討会で発表し、スーパービジョンを受ける。 3. 心理相談室で実際にケースを担当する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同)</p> <p>保健医療分野の施設での実習を必修とし、発達障害及び精神障害児者のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設において、障害者等のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ(選択)。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設において、心理相談や特別支援のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ(選択)。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理相談室の活動に参加しながら、ケースカンファレンス及びスーパービジョンを行い、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>心理実践実習Ⅳ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野のケース実習または見学実習を4週ずつ計8週行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 担当したケースについて症例検討会で発表し、スーパービジョンを受ける。 3. 心理相談室で実際にケースを担当する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同)</p> <p>保健医療分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、アセスメントの実際、健診の陪席、ケース実習を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践、ケース実習を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践、ケース実習を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美) 司法・犯罪分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介、裁判員裁判の見学を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理相談室でケースを担当し、ケースカンファレンス及びスーパービジョンを行い、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

臨床心理学研究法科目	心理支援科学特論	<p>(概要) 心理学及び医学・保健医療に関する高度な専門的知識と技能を修得するための基盤となる研究法を理解することを目標とする。心理学領域における臨床と基礎、及び保健衛生学領域における精神医学について、各教員が専門とする研究領域に関する講義を行う。論文を講読し、各領域における研究目的及び方法論を学び、結果と考察について理解を深め、心理支援への応用を考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (1 栗林理人／2回) 児童思春期における不登校、引きこもり、いじめの他、発達障害、その他の精神疾患などを取り上げ、学校における精神保健活動について講義する。</p> <p>(2 玉井康之／1回) 精神分析（精神分析的な精神療法）の代表的な理論を中心に講義する。</p> <p>(3 齊藤まなぶ／1回) 発達障害に関する海外のコホート研究を概説し、我が国の医学研究の動向と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(4 小河妙子／1回) 認知心理学や計算言語学などの学際領域における言語研究を概説し、心理言語に関する研究手法と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美／1回) パーソナリティ・アセスメントに関する歴史的展開を概観し、最新の研究動向について学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史／1回) カウンセリングにおける共感概念について体験過程理論とフォーカシングから概説し、アップデートしたカウンセリングを学ぶ。</p> <p>(7 大里絢子／2回) 臨床場面での心理アセスメントの実践に求められる態度、知識、技能について学ぶ。また、自閉スペクトラム症への早期介入に関する国内外の医学研究の動向と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(8 朴白順／1回) 老年期の特に記憶の障害と支援に焦点を当て、臨床神経心理学的な視点から研究動向について講義する。</p> <p>(9 大庭輝／1回) 認知症の当事者とその関係者である家族等介護者、高齢者施設職員を対象とした老年臨床心理学の研究動向について講義する。</p> <p>(10 楢引夏歩／2回) 青年期におけるパーソナリティ障害と人格特性、及び児童生徒の心理的健康に焦点を当てた教育相談に関する研究を概説し、最新の研究動向について学ぶ。</p> <p>(19 三上珠希／2回) 小児期の摂食障害に関して最新の精神医学的知見を学ぶ。また、乳幼児期の母子支援に関して、海外と我が国の母子支援に関する動向と最新の医学研究の知見を学ぶ。</p>	オムニバス方式
------------	----------	---	---------

<p>特別研究科目</p>	<p>保健学研究セミナー</p>	<p>(概要) 1. 学術的研究手法を修得するために3期（1年前期、1年後期、2年前期）に分割して実施する。 2. 指導教員と連携をとりながら、研究計画、予備研究・本研究の経過報告、最終的に研究結果報告を行う。 3. 他領域の研究について知識や理解を深め、自身の研究にも役立てていく。 4. 7分程度のプレゼンテーションを各々実施し、質疑応答に対応する。</p> <p>(オムニバス方式) (2 玉井康之、11 高見彰淑、14 門前暁、15 千葉満、16 山本美由紀) 1年前期（8-9月予定）は研究計画報告書、発表。 1年後期（2-3月予定）は研究経過報告書、発表。 2年前期（8-9月予定）は研究結果報告書、発表。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>心理支援科学特別演習</p>	<p>(概要) 本授業科目は、当該院生の担当指導教員が、学生の研究テーマに応じて、担当教員各自の専門領域に関する主要な問題について講義を行い、またはプレゼンテーションを通して討論を行い、知識を深めながら学位論文作成のための研究計画を立案する。また、医療倫理・研究倫理を理解し、倫理申請書を作成することを目標とする。各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げ、綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用し、的確なデータの収集と分析を行い、実証的な研究としてまとめる能力を身につける。受講生が各自の興味に従い各教員のゼミに所属し、ゼミごとに少人数形式で研究指導を行う。</p> <p>(教員ごとに単独／全30回) (1 栗林理人／30回) 児童思春期精神医学の視点から、不登校などの問題行動を中心として、子どものメンタルヘルスに関する臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(2 玉井康之／30回) コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケア、思春期青年期精神医学、精神分析的な精神医学に関連する領域における臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(3 齊藤まなぶ／30回) 未就学児の発達及び発達障害の疫学及び生理学的研究、発達の性差、睡眠障害、コロナ感染症によるメンタルヘルスなどに関して研究指導を行う。</p> <p>(4 小河妙子／30回) 人間の言語情報処理過程について、認知心理学的アプローチによる研究を中心に実験心理学の指導を行う。</p> <p>(5 井上直美／30回) 心理アセスメントのツール自体の研究を中心に、心理療法の効果研究、効果的な治療技法の開発に関する研究などについて指導を行う。</p> <p>(6 岡田敦史／30回) フォーカシング指向アプローチに関する基礎と応用を中心に、人間性心理学、感情と身体・感覚イメージ、アレキシサイミアなど幅広く研究指導を行う。</p> <p>(7 大里絢子／30回) 臨床心理学、発達心理学、子ども心理学に関して、心理アセスメントなどの研究指導を行う。</p> <p>(8 朴白順／30回) 認知症や高次脳機能障害などの神経心理学的研究を中心に、研究指導を行う。</p> <p>(9 大庭輝／30回) 認知症の問題について心理学的研究を中心に、高齢者の心理、認知症ケア、対人援助職のメンタルヘルスや教育訓練など幅広く研究指導を行う。</p>	

<p>心理支援科学特別研究</p>	<p>(概要) 臨床心理学に関する多様なテーマについて、各自の興味関心に基づき、研究を進める。指導教員は、受講者の研究の実践、指導を行い、先行研究レビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データの分析などについて修士論文指導を行う。</p> <p>(教員ごとに単独／全30回)</p> <p>(1 栗林理人／30回) 児童思春期精神医学の視点から、不登校などの問題行動を中心として、子どものメンタルヘルスに関する臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(2 玉井康之／30回) コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケア、思春期青年期精神医学、精神分析的な精神医学に関連する領域における臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(3 斉藤まなぶ／30回) 未就学児の発達及び発達障害の疫学及び生理学的研究、発達の性差、睡眠障害、コロナ感染症によるメンタルヘルスなどに関して研究指導を行う。</p> <p>(4 小河妙子／30回) 人間の言語情報処理過程について、認知心理学的アプローチによる研究を中心に実験心理学の指導を行う。</p> <p>(5 井上直美／30回) 心理アセスメントのツール自体の研究を中心に、心理療法の効果研究、効果的な治療技法の開発に関する研究などについて指導を行う。</p> <p>(6 岡田敦史／30回) フォーカシング指向アプローチに関する基礎と応用を中心に、人間性心理学、感情と身体・感覚イメージ、アレキシサイミアなど幅広く研究指導を行う。</p> <p>(7 大里絢子／30回) 臨床心理学、発達心理学、子ども心理学に関して、心理アセスメントなどの研究指導を行う。</p> <p>(8 朴白順／30回) 認知症や高次脳機能障害などの神経心理学的研究を中心に、研究指導を行う。</p> <p>(9 大庭輝／30回) 認知症の問題について心理学的研究を中心に、高齢者の心理、認知症ケア、対人援助職のメンタルヘルスや教育訓練など幅広く研究指導を行う。</p>	
-------------------	--	--

その他の専門科目	保健学連携セミナー	<p>(概要) 現在強く求められている“当事者中心”の医療を実践するために、多職種が連携するチーム医療のあり方を一歩深め、所属領域のみならず、他領域専門職の特徴、役割や立場をよく理解したうえで、どのような“当事者中心”の連携実践が実現可能か考察する。授業はオムニバス方式で行い、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・リハビリテーション科学・心理支援科学の立場からそれぞれの職域の概念と役割そしてチーム医療について講義を受ける。また、自分の職種に関するプレゼンテーション及びチーム医療についての事例検討をグループワークにて行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回) (1 栗林理人、12 佐藤真由美、13 加藤拓彦、17 對馬恵、18 阿部由紀子 / 2回) (共同) 本授業全体の流れと進め方及び評価などについて説明を行う。各グループで事例について発表を行い、全体討論を行う。</p> <p>(1 栗林理人 / 1回) 公認心理師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。</p> <p>(12 佐藤真由美 / 3回) 医療安全、看護職の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。</p> <p>(13 加藤拓彦 / 3回) 理学療法士・作業療法士の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p> <p>(17 對馬恵 / 3回) 診療放射線技師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p> <p>(18 阿部由紀子 / 3回) 臨床検査技師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域心理支援職セミナー	<p>(概要) 1. 心理学の専門性を生かした支援職や多職種連携及び総合的支援のための連携の実践を、地域の各領域の心理職が紹介することにより、地域の課題を踏まえ、青森県内での心理学の知見を生かした将来のキャリアの見通しと目標設定が可能となるようにする。 2. 青森県内の各領域の第一線で活躍中のゲストスピーカーの講義を通して、地域における心理支援職に対する学習意欲促進を図る。</p>	